

『愛語』

R 7. 11. 20 於、加茂法話会

① 愛語といふは、衆生をみるにまづ慈愛の心をおこし、顧愛の言語をほどこすなり。おほよそ暴惡の言語なきなり。世俗には安否をとふ礼儀あり、仏道には珍重のことばあり、不審の孝行あり。慈念衆生、猶如赤子のおもひをたくはへて言語するは愛語なり。徳あるはほむべし、徳なきはあはれむべし。愛語をこのむよりは、やうやく愛語を增長するなり。しかあれば、ひごろしられずみえざる愛語も現前するなり。現在の身命の存ぜらんあひだ、このんで愛語すべし、世々生々にも不退転ならん。怨敵を降伏し、君子を和睦ならしむること、愛語を根本とするなり。

むかひて愛語をきくは、おもてをよろこばしめ、こゝろをたのしくす。むかはずして愛語をきくは、肝に銘じ、魂に銘ず。しるべし、愛語は愛心よりおこる、愛心は慈心を種子とせり。愛語よく廻天のちからあることを学すべくなり、たゞ能を賞するのみにあらず。

② 良寛さまの戒語

ことばの多き

ことばのたがう

よく心得ぬことを、人に教うる

人のかくすことを、あからさまに言う

憎き心を持ちて、人を叱る。

悪しきと知りながら、言い通す。

下僕をつかうに、言葉のあらき

いやしきおどけ

学者くさき話

③ ひとつのことば

一つのことばで喧嘩して

一つのことばで仲なおり

一つのことばにおじぎして

一つのことばはそれぞれに

みんなで言おうありがとう

愛 語

愛 語ト云ハ衆生ヲ見ルニテ慈
愛ノ心ヨオコレ顧 愛ノ言語ヲホ
トコスナリホヨソ暴惡^{ボウ}言語ナキナリ
世俗ニ安否ヲトフ礼儀アリ佛道
道ニ珍重^{ジン}コトバアリ不審^{シレ}ソ孝行
アリ慈念衆生猶如赤子ノオモヒ
ヲタクハテ言語スルハ愛語ナリ德ア
ルハホムベシ德ナキハアハレムベシ愛語ヲ
コノムヨリハヤウヤタ愛語ヲ增長スル
ナリレカアレハニゴロニラレスミヘザル愛
語モ現前スルナリ現在ノ身命ノ存
スルアヒダコノシテ愛語スベシ世ニ
生ニニモ不退轉十ラン怨敵ヲ降伏
レ君子ヨ和睦ナラレムヒコト愛語ヲ
本トスルナリ向テ愛語ヲキクハヨモニテ
ヨロコハシメヨロチ樂シス向カハズシテ
愛語ヲキクハ肝ニ鑑^ミ魂ニ鑑スル
ビシ愛語ハ愛心ヨリナリ愛心ハ慈
ハキ種子トセリ慈^ミ語ヨリ四天ノ法

世俗ニ安否ヲトフ 礼儀アリ 佛道
道ニ珍重ニコトバアリ 不審ソ奉行
アリ 意念衆生猶如赤子オモヒ
ラタクハテ言語スル、愛語ナリ 德ア
ルハホムベシ 德ナキハアハレムベシ、言語ヲ
コノムヨリハヤウヤク愛語ヲ増長スル
ナリ レカアレハニゴロシテレスミヘザル愛
語モ現前スルナリ 現在、身命ノ存
スルアヒダコノニテ、愛語スベシ世ニ
生ニモ不退轉テラン怨敵ヲ降伏
シ君子ヲ知曉ナラムルコト、愛語ヲ
本トスルナリ 向ニ愛語ヲキクハモテヲ
ヨロコバニスヨロラ樂ニス向カハズシテ
意及語ヲキクハ肝ニ銘シ魂ニ銘スレ
ジシ愛及語ハ、愛心ヨリ十ニ愛心ハ意
ナ種子トセリ 愛及語ヨク迴天ノカラ
アルコトヨ學スベキナリ 多ビヒムラ賞ス
ルノミニアラズ

沙門 良完謹書